



通



(4,000円)

実用新案登録願

昭和53年 6月27日

特許庁長官 熊谷 善二 殿

通

1. 考案の名称 ゲン トウ キ
幻 灯 器
2. 考案者
- フリガナ
住所
- フリガナ
氏名

実用新案登録出願人と同じ。

3. 実用新案登録出願人

フリガナ
住所 ヨコハマシカナザワクトミオカチヨウ
サニーヒル B16
フリガナ エン ドウ トオル
氏名(名称) 遠 藤 徹
(国籍)

(外1名)

4. 代理人 〒154 電

住所

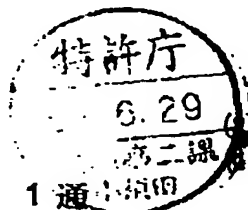
東京都世田谷区野沢3丁目14番19号

氏名

辦理士6929 金子 昭生
TEL 421-4576

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (3) 願書副本 1通
- (5) 出願審査請求書 1通
- 図面 1通
委任状 1通



方式
審査



53 088691

55-6937

明 細 書

1. 考案の名称

幻灯器

2. 実用新案登録請求の範囲

ケース内において電球より集光してフィルムに投光するとともにフィルム前方のレンズより上向き反射鏡を介しケース上部のスクリーンに投射するように構成し、前記フィルムの送り用スプロケットと同軸の正逆用両爪車に対し、つまみに切換自在に装着した係合片をいずれか一方に係合できるように設け、前記つまみの上下動操作により係合片を両爪車の一方に係合して回転させるとともに電源とのスイッチ作動ができるように連動構成したことを特徴とする幻灯器。

3. 考案の詳解を説明

本考案は幻灯器に関する。

すなわち、フィルムをケース上部のスクリーンに確實良好に投射してケース上方から良好に見ることができ、つまみを操作するだけでフィルム

55-6937

人を正逆いずれの方向にも送りができるとともに同時にスイッチ操作を行なうことができ、ワンタッチでもって簡単に操作でき簡単な構造にして好適に実施できるよう提供するものである。

以下、図面に示す実施例について説明する。
第1図は全体の斜視図を示し、ケース(1)の前方部における切欠部(2)にはつまみ(3)を上下動できるように設け、その近傍におけるケース(1)上面の長溝(4)には切換レバー(5)を突出させ、ケース(1)の後部にはすりガラス製のスクリーン(6)を斜設して構成するが、該スクリーン(6)にはボタン操作により展開される折りたたみ式のフードを装設することともできる。

ケース(1)内において、底板(12)上には前記スクリーン(6)の下方に傾斜して対向する反射鏡(7)を支持板(8)により支持して装設し、その後方には交直両用のバッテリー部(9)を装設して、電源用差込み(10)を有するコード(11)を接続して延出して構成する。

反射鏡(7)の前方における底板(12)上には

レンズ(12)を張設するが、その側方において前記基板(11)上に起立固定した支持板(13)に保持体(14)を固設して該保持体(14)にレンズ(12)を嵌着して取付けて、該保持体(14)の側方からは反射鏡(7)の方向に向けて平面傾斜状に案内板(15)を延出する。

前記レンズ(12)の後方には支持板(13)に固定板(16)および圧接板(17)を取付け、両板(16)(17)にはレンズ(12)に直面する面(図示省略)を形成し、両板(16)(17)の間には例えば23コマのロールフィルム(18)を挿入して圧接板(17)により圧接支持するように装設するが、カセット式にして装着する構成にすることもできる。

前記ロールフィルム(18)の側部には各コマに対し1つの係止孔(19)を形成し、前記支持板(13)に軸架して前記固定板(16)の下方にのぞむスプロケット(20)を係止孔(19)に係合させてフィルム送りができるよ

うに構成する。

また、前記固定板(16)の後方には反射鏡(21)を平面傾斜状に固定するが、前記支持板(13)に形成した丸孔(22)に対し45度方向に傾斜するとともに前記レンズ(12)に対し45度方向に傾斜するようにして反射鏡(21)を支持板(13)に固定し、丸孔(22)にはレンズ(23)を嵌着して構成する。

前記レンズ(12)やフィルム(18)側とは反対側の支持板(13)の側方には前記つまみ(3)と同体のレバー(24)をそわせるが、レバー(24)の前部を支持板(13)にピン(25)を介して枢支し、レバー(24)の中間部には両端に係止突起(26)(27)を有するじ状の係合片(28)をピン(29)を介し枢着して係合片(28)の上部には前記長溝(4)から突出する切換レバー(5)を一体に形成し、前記スプロケット(20)と同軸で一体に回転する両爪車(30)(31)を隣り合わせに設け、前記係止突起(26)(27)が横方向に

ねじれて偏位する状態で爪車(30)(31)に係合できるように設け、係合片(26)の一方側に突設したピン(32)とレバー(24)に突設したピン(33)とにはピン(25)上の支点結えを行なうことができる引張スプリング(34)の両端をそれぞれ連繋し、レバー(24)にはストッパ(35)(36)を突設して構成する。

また、前記爪車(30)(31)は相互に向きが反対であり、その側方に固定したソケット(37)には前記丸孔(22)の側方にのぞむ電球(38)を取付け、丸孔(22)の反対側における電球(38)の外側方には球面状の集光反射板(39)を固定し、前記ソケット(37)とマイクロスイッチ(40)とを電気接続し、前記ピン(25)の下方に延出したレバー(24)の先方下端部(24a)と支持板(13)との間に引張スプリング(41)を連繋し、その先方下端部(24a)に屈折形成した突片(42)がマイクロスイッチ(40)のスイツ

テローラー（43）に接合すると電球（38）を点灯させるようにし、バッテリー部（9）とマイクロスイッチ（40）およびマイクロスイッチ（40）とソケット（37）をコード（44）（45）によりそれぞれ接続して構成する。

しかして、引張スプリング（41）に抗張してつまみ（3）を指先でもって矢印（4）で示すように押し下げると、ピン（25）を支点にして回転するレバー（24）の先端突片（42）が矢印（4）で示すように前方へ可動し、そのまま突片（42）がスイッチテローラー（43）を押動してマイクロスイッチ（40）を接続作動させ、同時に電球（38）が点灯し、第7図の矢印群および第2図の仮起線矢印で示すように、電球（38）の電光が集光反射板（39）で集光反射され、レンズ（23）を透過して反射鏡（21）で反射され、フィルム（18）の1コマを透過してレンズ（12）を透過し、さらに反射鏡（7）で大きく反射されてスクリーン（6）にフィルム（18）の1コマを投影することが出来る。

なお電源としては電池又は一般の家庭で用いられている照明の交流電源いづれをも用いるものとする。

その場合に、つまみ(3)の押し下げを解除すると、引張スプリング(41)の引張力によりつまみ(3)は上昇復帰するとともに、突片(42)が逆矢印同方向に戻つてスイッチローラー(43)から離れるのでマイクロスイッチ(40)が切れ作動し電球(38)が消灯し投影が中止されるが、第4図に示すように、切換レバー(5)を一方側に倒して引張スプリング(34)がピン(29)上の支点越えをするようにしておくと、係止突起(26)が正転用爪車(30)に係合する状態になつていたので、つまみ(3)を押し下げた状態で係止突起(26)が爪車(30)に係合し、つまみ(3)が上動するところで爪車(30)は係合片(28)の上動により係止突起(26)に引つけられて一定角度だけ回転させられ、同時にスプロケット(20)が同じく一定角度だけ正転してフィルム(18)を1

コマ分だけ正転方向に送りをおかけることができる。また、第6図に示すように、切換レバー(5)を他方側に倒して引張スプリング(34)がピン(29)上の支点軸えをするようにして係合片(28)を傾けると、係止突起(27)が逆転用爪車(31)に係合する状態となり、つまみ(3)を押し下げた状態で係止突起(27)が爪車(31)に係合し、つまみ(3)が上動するところで爪車(31)は係合片(28)の上動により係止突起(27)にひっつけられて一定角度だけ逆方向に回転させられ、同時にスプロケット(20)が同じく一定角度だけ逆転してフィルム(18)を1コマ分だけ逆転方向に送りをおかけることができる。

すなわち、つまみ(3)を押し下げると電球(38)を点灯させてスクリーン(6)に投影することができ、つまみ(3)の上動により電球(38)が消灯しスクリーン(6)の投影が消えるとともにフィルム(18)の1コマが正逆転いずれの方向かに送りをおかけられて次なる投影の体勢にな

る状態にすることができる。なお又スクリーン(4)上には撮影時蓋板として折畳まれ、使用時起立してひさし状となり映像を鮮明にうつし出す様なフード体を取りつけるものとする。

このように本考案は、ケース内において電球より集光してフィルムに投光するとともにフィルム前方のレンズより上向き反射鏡を介しケース上部のスクリーンに投射するように構成し、前記フィルムの送り用スプロケットと同軸の正逆用両爪車に対し、つまみに切換自在に装着した係合片をいずれか一方に係合できるように設け、前記つまみの上下動操作により係合片を両爪車の一方に係合して回転させるとともに電源とのスイッチ作動ができるように連動構成したから、フィルムをケース上部のスクリーンに確実良好に投射してケース上方から良好に見ることができ、つまみを操作するだけでフィルムを正逆いずれの方向にも送りをかけることができるとともにスイッチ操作を行なうことができ、ワンタッチでもつて投影とフィルムの送りを行

なりととの操作ができ、簡単に調整にして機能良好なる精度のよい投射ができ、好適に実施できる特徴を有する。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第1図は全体の外面斜視図、第2図はその側断面図、第3図は内部の平面図、第4図は第3図の一部の側面図、第5図は第3図の中央部分の平面図、第6図は第4図の一部で示す作動説明図、第7図は要部で示す投射の説明図である。

(1)・・・ケース、(38)・・・電球、
(18)・・・フィルム、(12)・・・レンズ、
(7)・・・反射鏡、(6)・・・スクリーン、(20)
・・・スプロケット、(3)・・・つまみ、(28)
・・・係合片、(30)(31)・・・爪車。

出 願 人	遠 藤 徹
出 願 人	品 川 正 彦
代 理 人	弁 理 士 金 子 昭 生

図 1

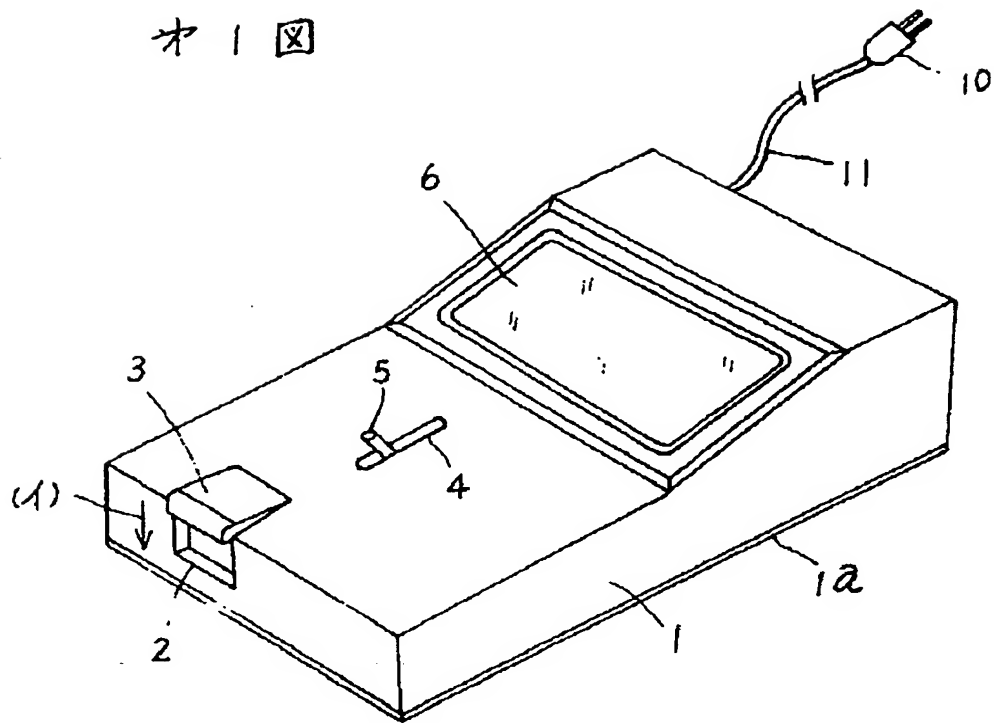
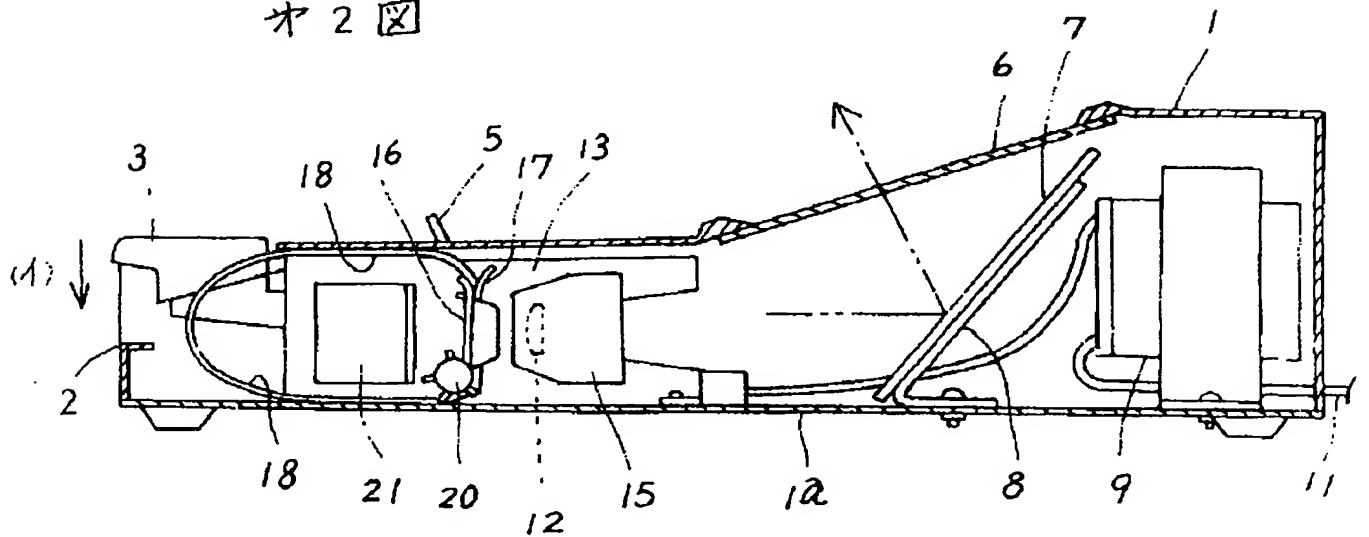
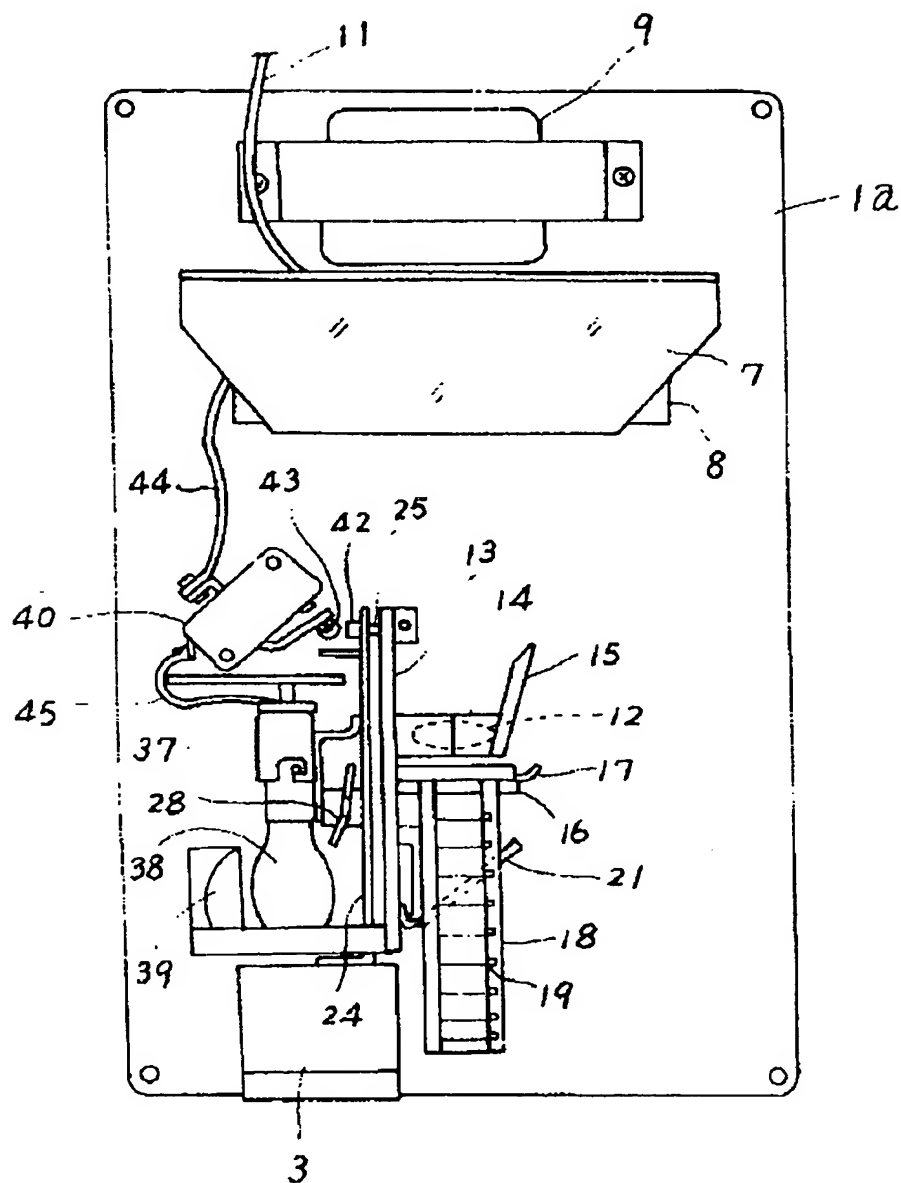


図 2



才 3 図



1/4

図4

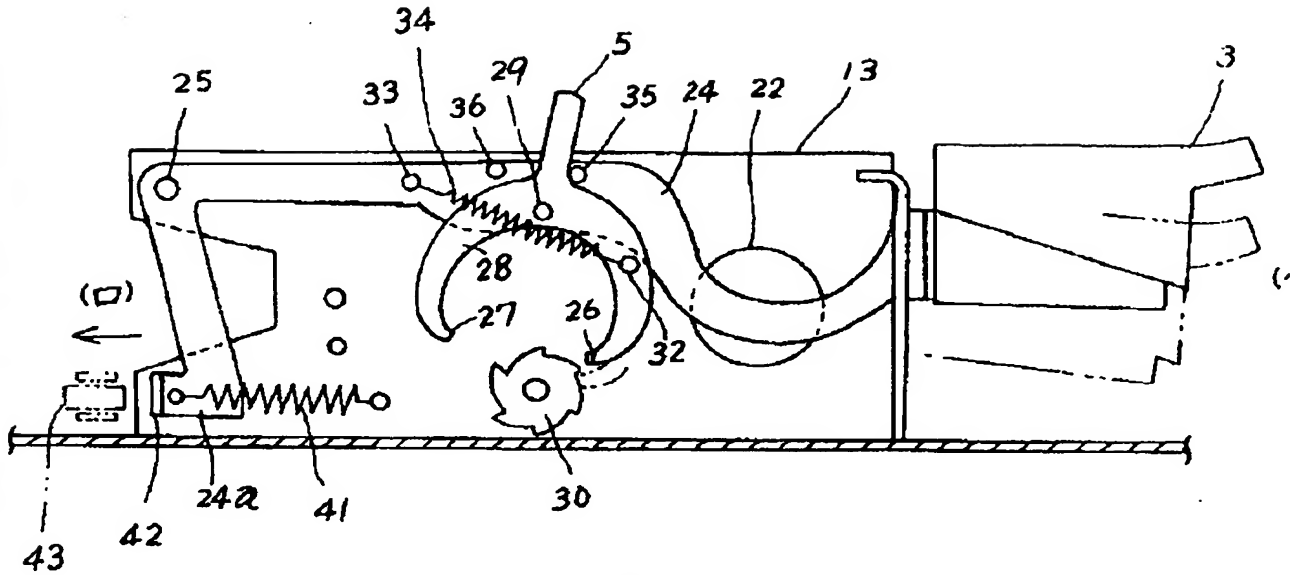


図5

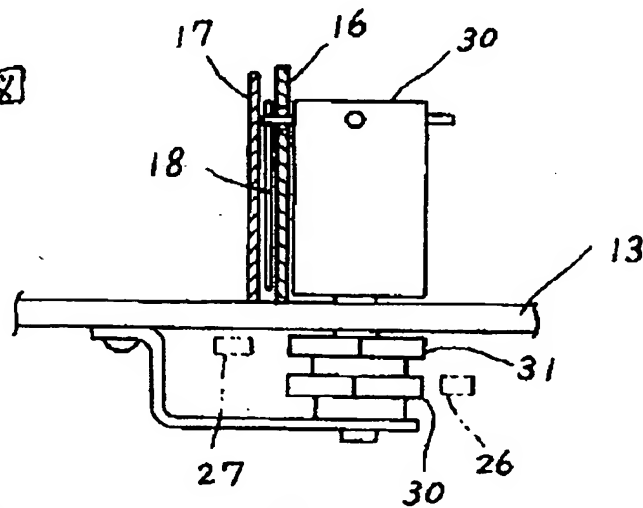
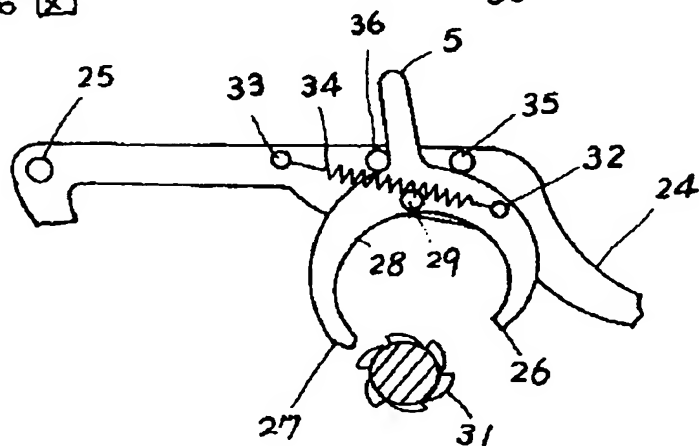
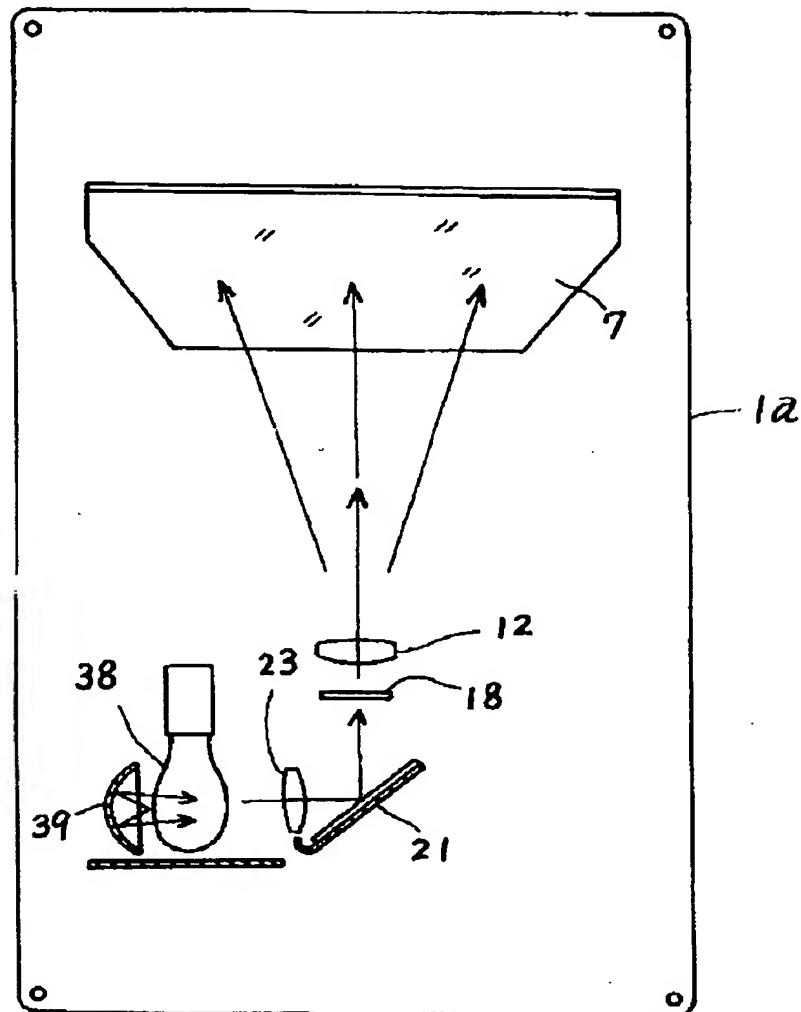


図6



6937 3/4

図 7



出願人

遠藤 徹

出願人

品川 正憲

代理人

弁理士 金子 昭生

6937 4/4

6 前記以外の実用新案登録出願人

住 所	神奈川県横浜市港南区 ^{ヨコハマシコウナンク} 笹下 ^{ササゲ} 5-10-23
氏 名	シナガワ マサノリ 品 川 正 憲